

1.技 術	2.2 下水・排水処理に関する調査（再利用を含む）
2.事 業 名	2.2.3 森林域における集落排水処理施設で発生する汚泥の減量化と有効利用の調査研究 2003（H15）
3.キーワード	森林域、農業集落処理、汚泥減量化、有効利用、オゾン、高熱菌、超音波、下水処理場
4.目 的	<p>本調査は、主として森林地域に設置されている集落排水処理施設を対象に、そこで発生する汚泥処理状況を調査したものである。一般に汚泥の処分においては輸送コストが料金に大きく影響するといわれているが、その点、森林域に存在する集落排水処理施設は、輸送コストの面で元々不利な状況にあり、減量化や有効利用化が特に求められている。そうした視点から調査をすすめ、汚泥減量化等と汚泥の有効利用に関する情報を収集した。</p> <p>汚泥の減量化技術としては、汚泥の改質により発生量を抑制する方法と、発生した汚泥を嫌気性微生物等の作用により分解して原料する方法がある。近年、前者の方法としてオゾンと高熱菌、超音波などの方法が開発され実用化が図られていることを確認した。</p> <p>また、(社)日本農業集落排水協会は、平成16年7月に名称を(社)地域資源循環技術センターと変更したが、新しい名称が示すように、今後は農業集落排水処理施設で発生した汚泥の有効利用が当センターの重要テーマとなっていくものと予想される。本調査では汚泥の有効利用や汚泥減量化を行っている小規模の下水処理場や農業集落処理施設を見学し、その概要を紹介した。</p>
5.参 照	助 成：(社)国土緑化推進機構